

松宮孝明 教授 略歴・主な業績

略 歴

略 歴

1958年3月11日	滋賀県長浜市に生まれる
1976年3月	滋賀県立虎姫高等学校卒業
1976年4月	京都大学法学部入学
1980年3月	京都大学法学部卒業
1980年4月	京都大学大学院法学研究科修士課程入学
1982年3月	京都大学大学院法学研究科修士課程修了（法学修士）
1982年4月	京都大学大学院法学研究科博士後期課程進学
1985年3月	京都大学大学院法学研究科博士後期課程学修退学
1992年9月	ドイツ・ボン大学在外研究（～1994年3月）
2001年4月	ドイツ・ボン大学在外研究（～2001年9月）
2005年11月	中国・人民大学名誉教授
2006年3月	博士（法学・立命館大学）
2018年4月	ドイツ・フライブルク大学在外研究（～2018年9月）

職 歴

1985年4月	京都大学文部教官助手
1987年4月	南山大学法学部専任講師
1990年4月	立命館大学法学部助教授
1995年4月	立命館大学法学部教授
2004年4月	立命館大学大学院法務研究科教授（～現在に至る）

*上記のほか、愛知教育大学教育学部、三重大学人文学部、名城大学法学部、京都大学総合人間学部、九州大学法学部、島根大学法学部、京都府立医科大学医学部、京都大学医学部、京都女子大学法学部などで非常勤講師として勤務する。

（学内役職歴）

1995年4月	立命館大学法学部学生主事（～1996年3月）
---------	------------------------

2004年4月 立命館大学大学院法務研究科副研究科長(～2007年3月)
2006年4月 立命館大学大学院法務研究科大学院委員(～2007年3月)
2010年4月 立命館大学大学院法務研究科長(～2016年3月)

所属学会・社会活動等

日本刑法学会(理事:2000年5月～2021年5月)
日本犯罪社会学会(理事:2011年10月～2017年10月, 監事:2017年10月～2020年10月,
理事:2020年10月～現在に至る)
法と心理学会(理事:2009年10月～2012年10月, 2021年9月～現在に至る)
日本医事法学会
日本法社会学会
民主主義科学者協会法律部会(理事:2005年11月～現在に至る)

科学研究費助成事業(研究代表のみ記載)

基盤研究(C)「薬物事犯および財産犯における刑罰と処分および治療の兼ね合い」
(2021年度～2023年度)

主な業績

単 著

『刑事過失論の研究』
(成文堂)〔初版〕(1989年6月)
〔補正版〕(2004年12月)
『刑法総論講義案』
(成文堂)(1997年4月)
『刑法総論講義』
(成文堂)〔初版〕(1997年10月)
〔第2版〕(1999年1月)
〔第3版〕(2004年3月)
〔第4版〕(2009年3月)
〔第5版〕(2017年3月)
〔第5版補訂版〕(2018年8月)

- 『刑事立法と犯罪体系』
(成文堂) (2003年 5 月)
- 『過失犯論の現代的課題』
(成文堂) (2004年 1 月)
- 『刑法各論講義』
(成文堂)〔初版〕(2006年 2 月)
〔補訂版〕(2006年10月)
〔第 2 版〕(2008年 3 月)
〔第 3 版〕(2012年10月)
〔第 4 版〕(2016年 3 月)
〔第 5 版〕(2018年 8 月)
- 『プチゼミ⑧刑法総論』
(法学書院) (2006年 4 月)
- 『刑法总论讲义〔第 4 版补正版〕』
* 『刑法総論講義』〔第 4 版〕(成文堂)の中国語訳版
钱 叶六訳/王昭武校閲
(中国人民大学出版社) (2013年 3 月)
- 『「共謀罪」を問う 法の解釈・運用をめぐる問題点』
(法律文化社) (2017年 9 月)
- 『刑法各论讲义〔第 4 版〕』
* 『刑法各論講義』〔第 4 版〕(成文堂)の中国語訳版
王昭武, 張小寧訳
(中国人民大学出版社) (2018年 9 月)
- 『先端刑法総論 現代刑法の理論と実務』
(日本評論社) (2019年 9 月)
- 『先端刑法各論 現代刑法の理論と実務』
(日本評論社) (2021年 9 月)
- 『刑事再審制度の意味とその改革』〔立命館大学法学叢書第24号〕
(成文堂) (2022年11月)

単編(編著・編訳)

『ハイブリッド刑法総論』

編著(法律文化社)〔初版〕(2009年1月)

〔第2版〕(2015年5月)

〔第3版〕(2020年4月)

『ハイブリッド刑法各論』

編著(法律文化社)〔初版〕(2009年1月)

〔第2版〕(2012年4月)

『ギュンター・ヤコブス著作集〔第1巻〕犯罪論の基礎』

編訳(成文堂)(2014年11月)

『判例刑法演習』

編著(法律文化社)(2015年4月)

『ギュンター・ヤコブス著作集〔第2巻〕刑法と刑罰の機能』

編訳(成文堂)(2020年4月)

共著・共編・共編著

『現代刑法学原論〔総論〕』

刑法理論研究会として共編著
(三省堂)〔改訂版〕(1987年4月)

〔第3版〕(1996年4月)

『刑法総論』〔青林法学双書〕

浅田和茂, 斉藤豊治, 佐久間修, 山中敬一と共著
(青林書院)〔初版〕(1993年6月)

〔改訂版〕(1997年3月)

『刑法マテリアルズ 資料で学ぶ刑法総論』

西原春夫, 新倉修, 山口厚, 井田良と共編
(柏書房)(1995年6月)

『刑法各論』〔青林法学双書〕

浅田和茂, 斉藤豊治, 佐久間修, 山中敬一と共著
(青林書院)〔初版〕(1995年12月)

〔補正版〕(2000年4月)

『現代刑法入門』〔有斐閣アルマ〕

浅田和茂, 内田博文, 上田寛と共著
(有斐閣)〔初版〕(1996年11月)
〔第2版〕(2004年4月)
〔第2版補訂〕(2008年4月)
〔第3版〕(2012年4月)
〔第3版補訂〕(2014年9月)
〔第4版〕(2020年3月)

『レヴィジョン刑法1 共犯論』

中山研一, 浅田和茂と共著
(成文堂)(1997年11月)

『医事法』

前田達明, 稲垣喬, 手嶋豊執筆代表
(有斐閣)(2000年1月)

『はじめての法律学 HとJの物語』〔有斐閣アルマ〕

松井茂記, 曾野裕夫と共著
(有斐閣)〔初版〕(2000年3月)
〔補訂版〕(2004年3月)
〔補訂2版〕(2005年3月)
〔第2版〕(2006年3月)
〔第3版〕(2010年12月)
〔第3版補訂版〕(2013年2月)
〔第4版〕(2014年3月)
〔第5版〕(2017年4月)
〔第6版〕(2020年3月)

『レヴィジョン刑法2 未遂犯論・罪数論』

中山研一, 浅田和茂と共著
(成文堂)(2002年2月)

『学習コンメンタール刑法』

伊東研祐と共編
(日本評論社)(2007年4月)

『新経済刑法入門』

神山敏雄, 齊藤豊治, 浅田和茂と共編著
(成文堂)〔初版〕(2008年12月)
〔第2版〕(2013年7月)

齊藤豊治, 浅田和茂, 高山佳奈子と共編著
〔第3版〕(2020年12月)

『レヴィジョン刑法3 構成要件・違法性・責任』

中山研一, 浅田和茂と共著
(成文堂)(2009年6月)

『刑事法理論の探求と発見 齊藤豊治先生古稀祝賀論文集』

浅田和茂, 川崎英明, 葛野尋之, 前田忠弘と共編
(成文堂)(2012年12月)

『新・コンメンタール刑法』

伊東研祐と共編
(日本評論社)(2013年3月)

『レクチャー日本の司法』〔αブックス〕

川嶋四郎と共編
(法律文化社)(2014年2月)

『新版 口述刑法各論〔補訂3版〕』

中山研一著の補訂を担当
(成文堂)(2014年9月)

『自由と安全の刑事法学 生田勝義先生古稀祝賀論文集』

浅田和茂, 上田寛, 本田稔, 金尚均と共編
(法律文化社)(2014年9月)

『リーディングス刑法』

伊東研祐と共編
(法律文化社)(2015年9月)

『浅田和茂先生古稀祝賀論文集〔上巻〕〔下巻〕』

井田良, 井上宜裕, 白取祐司, 高田昭正, 山口厚と共編
(成文堂)(2016年10月)

『刑事法の理論と実務①』

佐伯仁志, 高橋則夫, 只木誠と共編
(成文堂)(2019年7月)

『日中経済刑法の最新動向』

齊藤豊治，高山佳奈子と共編著
(成文堂) (2020年3月)

『刑事法の理論と実務②』

佐伯仁志，高橋則夫，只木誠と共編
(成文堂) (2020年6月)

『新・コンメンタール刑法〔第2版〕』

金澤真理と共編
(日本評論社) (2021年2月)

『ストップ!! 国政の私物化』

上脇博之，阪口徳雄，前川喜平，小野寺義象，石戸谷豊，岡田正則と共著
(あけび書房) (2021年4月)

『刑事法の理論と実務③』

佐伯仁志，高橋則夫，只木誠と共編
(成文堂) (2021年12月)

『学問と政治 学術会議任命拒否問題とは何か』〔岩波新書〕

芦名定道，宇野重規，岡田正則，小沢隆一，加藤陽子と共著
(岩波書店) (2022年4月)

『刑事法の理論と実務④』

佐伯仁志，高橋則夫，只木誠と共編
(成文堂) (2022年10月)

監 訳 書

『韓国刑法総論』

金日秀，徐輔鶴著 齊藤豊治と監訳
(成文堂) (2019年12月)

『金融犯罪刑法学原理 金融犯罪に対する中国刑法学の挑戦』

劉憲權著/孫文訳 監訳を担当
(成文堂) (2021年9月)

論 文

- 「ドイツにおける過失犯論の変遷と『許された危険論』の役割(一),(二)・完」
法学論叢115巻2号28頁(1984年5月)
法学論叢115巻3号32頁(1984年6月)
- 「『信頼の原則』による過失限定の意味:(西)ドイツ判例を素材として」
犯罪と刑罰1号97頁(1985年10月)
- 「白石中央病院火災事件判決について」
刑法雑誌28巻1号46頁(1987年5月)
- 「『過失の標準』について(一),(二),(三)・完」
南山法学11巻1号59頁(1987年7月)
南山法学11巻2号41頁(1987年10月)
南山法学11巻3号47頁(1988年1月)
- 「軽微交通事犯の処理」
刑法雑誌28巻2号175頁(1987年12月)
- 「患者の自己決定権と治療拒否権」
南山法学11巻3号95頁(1988年1月)
- 「予見可能性と危惧感」
南山法学11巻4号25頁(1988年3月)
- 「西ドイツの『臨死介助対案』とその基本思想」
刑法雑誌29巻1号167頁(1988年9月)
- 「『進言義務』と過失不作為犯:大洋デパート火災控訴審判決を素材に」
南山法学13巻1号93頁(1989年8月)
- 「ノヴァ型再審における請求審の構造について(一),(二)完」
南山法学13巻2=3号35頁(1989年12月)
南山法学13巻4号31頁(1990年3月)
- 「過失犯における予見可能性と法定的符合説:前田教授の見解に対して」
法学セミナー423号94頁(1990年3月)
- 「過失犯における『予見の対象』」
判例タイムズ724号75頁(1990年6月)
- 「交通軽微事犯からみる市民と警察」
法と民主主義250号37頁(1990年9月)
- 「業務上過失について」
立命館法学212号43頁(1990年12月)

「再審請求」

松尾浩也, 井上正仁編

ジュリスト増刊『刑事訴訟法の争点(新版)』256頁(1991年6月)

「『変死体』の取り扱いをめぐる諸問題」

立命館法学215号39頁(1991年6月)

「火災事件と管理・監督過失」

立命館法学218号1頁(1991年12月)

「『脳死』について」

中山研一, 森井暲, 山中敬一編

『刑法理論の探究——中刑法理論の検討 中義勝先生古稀祝賀』

(成文堂)419頁(1992年3月)

「『過失の標準』再論」

刑法雑誌32巻3号368頁(1992年5月)

「脳死臨調最終答申を読む 『哲学の貧困』と『政策論の欠如』」

法学セミナー449号20頁(1992年5月)

「『公訴権濫用』と『処罰不相当』:『非典型的刑罰消滅事由』について」

立命館法学223=224号197頁(1993年1月)

「検死制度について」

犯罪と刑罰9号135頁(1993年3月)

「診断行為と過失」

中山研一, 泉正夫編『医療事故の刑事判例 第2版』

(成文堂)57頁(1993年5月)

「ドイツにおける『管理・監督責任』論」

中山研一, 米田泰邦編著

『火災と刑事責任 管理者の過失処罰を中心に』

(成文堂)167頁(1993年11月)

「非故意行為に対する共犯:『故意への従属性』について」

立命館法学231=232号237頁(1994年3月)

„Die Lehre von der fahrlässigen Mittäterschaft in Japan“

Ritsumeikan Law Review No. 9, S. 17 (1994年3月)

- 「過失犯における正犯概念(一), (二), (三・完): 火災事件をめぐる議論を素材に」
立命館法学235号1頁(1994年10月)
立命館法学238号41頁(1995年3月)
立命館法学279号1頁(2002年2月)
- 「薬物事犯と抽象的事実の錯誤」
立命館法学236号211頁(1994年12月)
- 「法秩序の統一性と違法阻却」
立命館法学238号75頁(1995年3月)
- 「校庭への立ち入りと建造物侵入罪」
立命館法学239号162頁(1995年6月)
- 「公共工事をめぐる政治腐敗と刑事規制」
犯罪と刑罰11号54頁(1995年12月)
- 「共犯の『従属性』について」
立命館法学243=244号302頁(1996年3月)
- „Umweltschutz Strafrecht Gegenwärtiger Stand und Problematiken“
Ritsumeikan Law Review No. 12, S. 123(1996年3月)
- 「生命倫理と人権」
生田勝義, 大河純夫編
『世紀転換期の日本と世界1 法の構造変化と人間の権利』
(法律文化社) 169頁(1996年6月)
- 「ゼネコン汚職から見た地方分権の課題」
法の科学24号58頁(1996年7月)
- 「『保障人』説について」
刑法雑誌36巻1号165頁(1996年8月)
- 「捜査機関に対する参考人の虚偽供述と証拠隠滅罪」
立命館法学246号40頁(1996年8月)
- 「自殺関与罪と実行の着手」
中山研一先生古稀祝賀論文集編集委員会編
『中山研一先生古稀祝賀論文集 第一巻 生命と刑法』
(成文堂) 237頁(1997年2月)
- 「過剰入金と財産犯」
立命館法学249号404頁(1997年3月)

- 「共犯の因果性」(特集 判例で学ぶ刑法総論)
法学教室202号 39頁 (1997年 7月)
- 「共犯」(特集 刑法総論がわかる)
法学セミナー511号 70頁 (1997年 7月)
- 「共犯論の再検討」
刑法雑誌37巻 2号 96頁 (1998年 2月)
- 「過失犯論の今日的課題」
東巖李炯國教授華甲紀念論文集刊行委員會著
『現代刑事法の争点と課題 (現代刑事法の争点と課題)』
〔韓国〕 法文社) 959頁 (1998年 2月)
- 「『不真正不作為犯』について」
西原春夫先生古稀祝賀論文集編集委員会編
『西原春夫先生古稀祝賀論文集 第一巻』
(成文堂) 159頁 (1998年 3月)
- 「『共犯の処罰根拠』について」
立命館法学256号 74頁 (1998年 3月)
- 「組織犯罪対策と犯罪化, 重罰化について」
犯罪と刑罰13号 27頁 (1998年 6月)
- 「過失犯論の今日的課題」
刑法雑誌38巻 1号 12頁 (1998年 7月)
- 「身分の連帯作用について」
刑法雑誌38巻 1号 79頁 (1998年 7月)
- 「再審請求審と『事実の認定』」
井戸田侃, 庭山英雄, 光藤景皎, 小田中聰樹, 大出良知編著
『竹澤哲夫先生古稀祝賀記念論文集 誤判の防止と救済』
(現代人文社) 523頁 (1998年 7月)
- 「『当事者主義』を考える」
ジュリスト1148号 84頁 (1999年 1月)
- 「検死と臓器移植: 検死制度の意義に関連して」
刑法雑誌38巻 2号 104頁 (1999年 2月)
- 「日本刑法37条の緊急避難規定について」
立命館法学262号 40頁 (1999年 3月)

- 「刑法学（注意義務論）からみた交通業過事件の犯罪事実の書き方」
季刊刑事弁護18号 32頁（1999年4月）
- 「文書偽造罪における作成者と名義人について」
立命館法学264号 1頁（1999年9月）
- 「事実の錯誤と故意概念」
現代刑事法 6号 34頁（1999年10月）
- 「医療と刑事規制」
前田達明, 稲垣喬, 手嶋豊執筆代表
『医事法』（有斐閣）151頁（2000年1月）
- 「『正犯』と『共犯』：その根拠と限界」
刑法雑誌39巻2号 260頁（2000年2月）
- 「再審請求審における総合評価：
マルヨ無線強盗殺人放火事件再審特別抗告審決定について」
立命館法学268号 1頁（2000年3月）
- 「控訴審破棄判決の拘束力について」
刑法雑誌40巻1号 83頁（2000年7月）
- 「再審請求審における総合評価の意味：
尾田事件再審特別抗告審決定の批判的検討」
季刊刑事弁護23号 20頁（2000年7月）
- 「『横領』概念について」
産大法学34巻3号 294頁（2000年10月）
- 「控訴審破棄判決の拘束力について」
浅田和茂, 川崎英明, 安原浩, 石塚章夫編
『刑事・少年司法の再生 梶田英雄判事 守屋克彦判事退官記念論文集』
（現代人文社）471頁（2000年10月）
- 「臓器移植法の問題点とその見直しにむけて」
森本益之, 加藤久雄, 生田勝義編
『大野眞義先生古稀祝賀 刑事法学の潮流と展望』
（世界思想社）409頁（2000年11月）
- 「相当因果関係」
- 「放火罪における公共の危険の認識」
西田典之, 山口厚編
ジュリスト増刊『刑法の争点〔第3版〕』22頁, 214頁（2000年11月）

「被害者の『自己答責性』と過失正犯」

小田中聰樹, 鈴木茂嗣, 能勢弘之, 守屋克彦, 四宮啓編
『誤判救済と刑事司法の課題 渡部保夫先生古稀記念論文集』
(日本評論社) 523頁 (2000年12月)

「『行為』概念と犯罪体系」

立命館法学271=272号 874頁 (2001年2月)

「交通事故における刑事過失責任追及の意味」

法と心理1巻1号 22頁 (2001年10月)

「『積極的一般予防論』と刑事立法の限界」

光藤景皎先生古稀祝賀論文集編集委員会編
『光藤景皎先生古稀祝賀論文集 下巻』
(成文堂) 967頁 (2001年12月)

「誤振込と財産犯の解釈および立法：ドイツおよびスイスの議論を素材にして」

立命館法学278号 1頁 (2001年12月)

「ドイツ刑法学界の近況と日本刑法学」

現代刑事法33号 56頁 (2002年1月)

「刑事立法論における自律と自己決定」

刑法雑誌41巻2号 83頁 (2002年2月)

「不作為犯」

刑法雑誌41巻2号 157頁 (2002年2月)

「文書偽造罪の保護法益」

現代刑事法35号 27頁 (2002年3月)

„Hirntod und Organtransplantation“

Ritsumeikan Law Review No. 19, S. 1 (2002年3月)

「不作為犯と因果関係論」

現代刑事法41号 8頁 (2002年9月)

「薬害エイズ事件と過失論：帝京大ルート第一審判決を素材に」

西原春夫, 新倉修, 齋藤正和, 酒井安行, 大塚裕史, 高橋則夫編
『佐々木史朗先生喜寿祝賀 刑事法の理論と実践』
(第一法規) 167頁 (2002年11月)

- 「情報横領と不法領得の意思」
三原憲三先生古稀祝賀論文編集委員会編
『三原憲三先生古稀祝賀論文集』
(成文堂) 535頁(2002年11月)
- 「実体刑法とその『国際化』——またはグローバリゼーション——に伴う諸問題」
法律時報75巻2号25頁(2003年2月)
- 「証拠証券の受交付と詐欺罪」
立命館法学286号227頁(2003年3月)
- 「誤振込と財産犯：ドイツの判例を素材にして」
渥美東洋, 椎橋隆幸, 日高義博, 山中敬一, 船山泰範編
『刑事法学の現実と展開：齊藤誠二先生古稀記念』
(信山社) 403頁(2003年6月)
- 「特集 刑法と民法の交錯：その一断面 本共同研究の趣旨」
「財産犯における刑法と民法の交錯：誤振込金員の引き出しを素材に」
刑法雑誌43巻1号72頁, 82頁(2003年7月)
- 「性犯罪における構成要件論的弁護」
季刊刑事弁護35号42頁(2003年7月)
- 「再審請求審における証拠調べ」
寺崎嘉博, 白取祐司編
『激動期の刑事法学 能勢弘之先生追悼論集』
(信山社) 277頁(2003年8月)
- 「刑事立法の新動向とその検討」
刑法雑誌43巻2号282頁(2004年1月)
- 「『犯罪地』：IT時代ないしグローバリゼーションと『属地主義』」
刑法雑誌43巻2号316頁(2004年1月)
- 「『共謀罪』および国際組織犯罪対策のための刑事立法の動向」
法学セミナー590号60頁(2004年2月)
- 「詐欺罪における不法領得の意思について」
立命館法学292号304頁(2004年3月)
- 「生命保護に関する刑法と民法」
現代刑事法62号30頁(2004年6月)

- 「特集 21世紀刑事法の展望 本特集の趣旨」
「21世紀における新しい刑法典作成の可能性と条件」
犯罪と刑罰16号 1頁, 3頁 (2004年6月)
- 「犯罪と戦争：『9・11』と刑事法」
法の科学34号 80頁 (2004年8月)
- 「過失致死傷罪と量刑」
前野育三, 齊藤豊治, 浅田和茂, 前田忠弘編
『量刑法の総合的検討 松岡正章先生古稀祝賀』
(成文堂) 195頁 (2005年2月)
- 「ポストティングと住居侵入罪」
立命館法学297号 1頁 (2005年2月)
- 「『過剰収容』時代の重罰化」
法律時報77巻3号 1頁 (2005年3月)
- 「印章偽造と文書偽造」
立命館法学298号 357頁 (2005年3月)
- 「刑罰目的と刑事立法」
広渡清吾, 大出良知, 川崎英明, 福島至編
『小田中聰樹先生古稀記念論文集
民主主義法学・刑事法学の展望 下巻 刑法・民主主義と法』
(日本評論社) 66頁 (2005年12月)
- 「日本の犯罪体系論について」
立命館法学303号 318頁 (2006年2月)
- 「法定刑引き上げと刑罰論」
法律時報78巻3号 6頁 (2006年3月)
- 「今日の日本刑法学とその課題」
立命館法学304号 295頁 (2006年3月)
- 「法定刑の原理論」
法律時報78巻4号 86頁 (2006年4月)
- 「改正独占禁止法と『二重処罰の禁止』」
齊藤豊治, 日高義博, 甲斐克則, 大塚裕史編
『神山敏雄先生古稀祝賀論文集 第二巻 経済刑法』
(成文堂) 85頁 (2006年8月)

- 「法定刑引き上げと刑罰論」
立命館法学306号 27頁 (2006年8月)
- 「共謀罪の新設と刑法の機能」
法律時報78巻10号 44頁 (2006年9月)
- 「経営判断と背任罪」
立命館法学307号 95頁 (2006年10月)
- 「ピラ入れ・政治活動の自由と刑事規制：公共圏は成立しうるか」
法の科学37号 158頁 (2006年11月)
- 「現代の刑罰論から見た犯罪論：問題提起にかえて」
刑法雑誌46巻2号 222頁 (2007年2月)
- 「被害者による加害行為と暴行および正当防衛の成否」
立命館法学310号 409頁 (2007年3月)
- 「強制と緊急避難について」
三井誠, 中森喜彦, 吉岡一男, 井上正仁, 堀江慎司編
『鈴木茂嗣先生古稀祝賀論文集 [上巻]』
(成文堂) 299頁 (2007年5月)
- „Zum Nötigungsnotstand“
Michael Pawlik, Rainer Zaczyk (Hrsg.)
Festschrift für Günther Jakobs: zum 70. Geburtstag am 26. Juli 2007
(Carl Heymanns Verlag) S. 361 (2007年7月)
- 「『敵味方刑法』(Feindstrafrecht) という概念について」
法の科学38号 20頁 (2007年9月)
- 「不可罰的・共罰的事後行為」
- 「非典型担保と横領」
西田典之, 山口厚, 佐伯仁志編
ジュリスト増刊『刑法の争点』126頁, 202頁 (2007年10月)
- 「法益論の意義と限界を論ずる意味：問題提起に代えて」
刑法雑誌47巻1号1頁 (2007年11月)
- 「共犯論」(特集・刑法典の百年)
ジュリスト1348号 55頁 (2008年1月)
- 「佐伯刑法学における責任論」
犯罪と刑罰18号 61頁 (2008年3月)

- 「犯罪体系論再考」
立命館法学316号 318頁 (2008年 3月)
- 「今日における犯罪論と刑罰論の関係」
立命館法学317号 481頁 (2008年 6月)
- 「組織犯罪対策に見る『自由と安全と刑法』：共謀罪立法問題を含む」
刑法雑誌48巻2号 256頁 (2009年 2月)
- 「白地刑罰法規の規範補充を私人に委ねることと罪刑法定の原則」
立命館法学321=322号 438頁 (2009年 3月)
- 「量刑に対する責任、危険性および予防の意味」
立命館法学323号 1頁 (2009年 6月)
- 「コメント 刑事法上の人権保障に関する欧州人権条約と
EU 基本権憲章との関係」
立命館法学323号 174頁 (2009年 6月)
- 「二〇〇九年脳死・臓器移植法改正を批判する」
法律時報81巻11号 1頁 (2009年10月)
- 「刑事司法にみる民主的法律家運動の役割」
法と民主主義445号 63頁 (2010年 1月)
- 「みせかけの構成要件要素と刑法38条2項」
立命館法学327=328号 859頁 (2010年 3月)
- 「刑事時効見直しの動きと問題点 公訴時効と刑の時効を含めて」
季刊刑事弁護62号 8頁 (2010年 4月)
- 「詐欺罪の罪数について：最決平成22年 3月17日を素材として」
立命館法学329号 1頁 (2010年 6月)
- 「わが国の死因究明制度の概観と問題点」
年報医事法学25号 45頁 (2010年 7月)
- 「診断行為と過失」
中山研一、甲斐克則編著『新版 医療事故の刑事判例』
(成文堂) 43頁 (2010年 8月)
- 「『刑罰から自由な領域』の再定義と明確化」
法律時報82巻9号 4頁 (2010年 8月)
- 「司法制度改革と刑事法：刑事裁判は変わったか」
法の科学41号 56頁 (2010年 9月)

- 「『結果無価値論』と『行為無価値論』を対比させる意味について」
犯罪と刑罰20号9頁(2010年12月)
- 「罪刑法定の原則と刑法の解釈」
立命館法学332号171頁(2010年12月)
- „Zur Bedeutung von Schuld, Gefährlichkeit und Prävention für die Strafzumessung“
Wolfgang Frisch (Hrsg.)
Grundfragen des Strafzumessungsrechts aus deutscher und japanischer Sicht
(Mohr Siebeck) S. 27 (2011年)
- 「『裁判員裁判と未必の故意』を問題とする視点」
法律時報83巻1号80頁(2011年1月)
- 「裁判員裁判と未必の故意」
刑法雑誌50巻3号451頁(2011年3月)
- 「再審請求審における訴因変更の可否」
立命館法学333-334号1363頁(2011年3月)
- 「犯罪体系を論じる意味」
立命館法学335号376頁(2011年6月)
- 「犯罪体系を論じる意味について：中国刑法との比較を素材として」
浅田和茂，石塚伸一，葛野尋之，後藤昭，福島至編
『村井敏邦先生古稀記念論文集 人権の刑事法学』
(日本評論社) 26頁(2011年9月)
- 「量刑に対する責任，危険性および予防の意味」
ヴォルフガング・フリッシュ，浅田和茂，岡上雅美編著
『日独シンポジウム 量刑法の基本問題——量刑理論と量刑実務との対話——』
(成文堂) 31頁(2011年11月)
- 「猿払判決香城解説の検討：刑事法学から」
法律時報増刊『国公法事件上告審と最高裁判所』128頁(2011年12月)
- 「『明石歩道橋事故』と過失犯の共同正犯について」
立命館法学338号135頁(2011年12月)
- 「犯罪体系を論じる現代的意義：企画趣旨」
法律時報84巻1号4頁(2012年1月)
- 「構成要件の概念とその機能」
井上正仁，酒巻匡編『三井誠先生古稀祝賀論文集』
(有斐閣) 23頁(2012年1月)

- 「刑事法教育におけるグローバル化への対応」(新倉修, 高山佳奈子と共著)
学術の動向17巻3号 76頁 (2012年3月)
- 「『過失犯の共同正犯』の理論的基礎について:大塚裕史教授の見解に寄せて」
立命館法学339=340号 499頁 (2012年3月)
- 「裁判員裁判と公判前整理手続での打ち切り」
論究ジュリスト2号 101頁 (2012年8月)
- 「『株主権行使に関する利益供与』に関する規律 刑事法からの分析」
法律時報84巻11号 38頁 (2012年10月)
- 「共謀共同正犯」(特集 刑法と判例)
法学教室387号 23頁 (2012年12月)
- 「暴力団員のゴルフ場利用と詐欺罪」
浅田和茂, 川崎英明, 葛野尋之, 前田忠弘, 松宮孝明編
『刑事法理論の探求と発見 齊藤豊治先生古稀祝賀論文集』
(成文堂) 147頁 (2012年12月)
- 「強制執行妨害罪の濫用傾向について」
立命館法学345=346号 737頁 (2013年3月)
- 「21世紀の刑事立法と裁判員裁判」
犯罪と刑罰22号 225頁 (2013年3月)
- 「過失の競合:とりわけ過失不作為の競合」
刑法雑誌52巻2号 329頁 (2013年4月)
- 「控訴審における量刑審査の展望」
季刊刑事弁護74号 23頁 (2013年4月)
- 「政治資金規正法における規範的構成要件要素の認識について」
浅田和茂, 葛野尋之, 後藤昭, 高田昭正, 中川孝博編
『福井厚先生古稀祝賀論文集 改革期の刑事法理論』
(法律文化社) 477頁 (2013年6月)
- 「裁判員制度の改善提言について:施行後3年を経過した裁判員法の再検討」
日本法社会学会編『裁判員制度の法社会学』
法社会学79号 106頁 (2013年9月)
- 「クレジットカード使用と詐欺罪」
立命館法学351号 373頁 (2014年2月)

「『結果反(無)価値論』について」

高橋則夫, 川上拓一, 寺崎嘉博, 甲斐克則, 松原芳博, 小川佳樹編

『曾根威彦先生・田口守一先生古稀祝賀論文集 [上巻]』

(成文堂) 231頁 (2014年3月)

「『承継的』共犯について: 最決平成24年11月6日刑集66巻11号1281頁を素材に」

立命館法学352号 355頁 (2014年3月)

「挙動による欺罔と詐欺罪の故意」

岩瀬徹, 中森喜彦, 西田典之編

『町野朔先生古稀記念 刑事法・医事法の新たな展開 上巻』

(信山社) 529頁 (2014年3月)

「自動車事故をめぐる法改正の動き」

犯罪と刑罰23号 1頁 (2014年3月)

「詐欺罪と機能的治安法: ゴルフ場詐欺事件および近年の諸判例を手掛かりにして」

浅田和茂, 上田寛, 松宮孝明, 本田稔, 金尚均編

『生田勝義先生古稀祝賀論文集 自由と安全の刑事法学』

(法律文化社) 361頁 (2014年9月)

「誤振込みと財産犯・再論」

井田良, 高橋則夫, 只木誠, 中空壽雅, 山口厚編

『川端博先生古稀記念論文集 [下巻]』

(成文堂) 267頁 (2014年10月)

「企画の趣旨: 現代刑法改正を検証する意義」

「電子犯罪関係」

法学セミナー722号 11頁, 44頁 (2015年3月)

「強盗と恐喝の区別について」

法学新報121巻11=12号 341頁 (2015年3月)

「日本とドイツにおける構成要件論の異同: 小野清一郎の構成要件論を手掛かりに」

立命館法学357=358号 215頁 (2015年3月)

「ロー・スクール時代における刑事法教育と研究者養成: 研究者教員の立場から」

犯罪と刑罰24号 69頁 (2015年3月)

「生命刑(死刑): 国境を越えて見てみれば」

法律時報87巻7号8頁 (2015年6月)

「事実審査・刑法解釈と最高裁：

非刑事畑裁判官主導の事実審査と調査官主導の刑法解釈」

市川正人，大久保史郎，斎藤浩，渡辺千原編著

『日本の最高裁判所 判決と人・制度の考察』

(日本評論社) 99頁 (2015年6月)

「再審請求審における共犯形態『変更』の問題点：姫路郵便局事件を素材に」

大島和夫，棚澤能生，佐藤岩夫，白藤博行，吉村良一編

『広渡清吾先生古稀記念論文集 民主主義法学と研究者の使命』

(日本評論社) 295頁 (2015年12月)

「単一罪の一部に対する刑事補償について」

立命館法学363=364号 837頁 (2016年3月)

「振込め詐欺に利用された口座からの払戻しと財産犯」

井田良，井上宜裕，白取祐司，高田昭正，松宮孝明，山口厚編

『浅田和茂先生古稀祝賀論文集 [上巻]』

(成文堂) 765頁 (2016年10月)

「『共謀罪』と『組織犯罪準備罪]」

法律時報88巻12号 1頁 (2016年11月)

「規範目的と過失犯：

先行車との車間距離保持義務と異なった車線での追突事故」

立命館法学369=370号 678頁 (2017年3月)

「『自由刑の単一化』と刑罰目的・行刑目的」

法律時報89巻4号 79頁 (2017年4月)

「ギュンター・ヤコプスの刑法理論と日本刑法学」

井田良，川口浩一，葛原力三，塩見淳，山口厚，山名京子編

『山中敬一先生古稀祝賀論文集 [上巻]』

(成文堂) 29頁 (2017年4月)

「市民社会を揺るがす『テロ等準備罪] = 『共謀罪]」

月刊自治研59巻692号 10頁 (2017年5月)

「一般人は明確な処罰対象：『共謀罪] 法案の解説」

法と民主主義518号 3頁 (2017年5月)

「福知山線脱線事故刑事裁判を振り返って：最二決平成29年6月12日を素材に」

法律時報89巻10号 4頁 (2017年9月)

- 「組織的犯罪処罰法改正の問題点」
論究ジュリスト23号 105頁 (2017年11月)
- 「再審請求審および再審公判と『訴因変更』」
刑法雑誌57巻1号 34頁 (2017年12月)
- 「井戸田『公訴権濫用論』について」
季刊刑事弁護93号 117頁 (2018年1月)
- 「『目的犯』と危険運転致死傷罪における『通行妨害目的』」
伊東研祐, 小島秀夫, 中空壽雅, 松原芳博編
『市民的自由のための市民的熟議と刑事法 増田豊先生古稀祝賀論文集』
(勁草書房) 339頁 (2018年3月)
- 「背任罪における『財産上の損害』, 『任務違背』, 『図利加害目的』の関係」
立命館法学375=376号 422頁 (2018年3月)
- 「平成29年11月29日大法廷判決の意味するもの」
季刊刑事弁護94号 74頁 (2018年4月)
- 「正当防衛における『急迫性』について」
立命館法学377号 97頁 (2018年6月)
- 「ノヴァ型再審(刑訴法435条6号)における『より軽い罪』」
高橋則夫, 山口厚, 井田良, 川出敏裕, 岡田好史編
『日高義博先生古稀祝賀論文集 [下巻]』
(成文堂) 447頁 (2018年10月)
- „Einfluss auf die ostasiatische Strafrechtsdogmatik“
U. Kindhäuser, C. Kreß, M. Pawlik, C.- F. Stuckenberg (Hrsg.)
Strafrecht und Gesellschaft
(Mohr Siebeck) S. 751 (2019年3月)
- 「中国と日本の犯罪体系論: ある比較法の試み」
大阪市立大学法学雑誌64巻4号 132頁 (2019年3月)
- 「途中から過剰となった防衛行為と『罪を犯す意思』」
立命館法学381=382号 106頁 (2019年3月)
- 「構成要件と犯罪体系」
立命館法学383号 100頁 (2019年6月)
- 「タワー事件大阪高裁判決に対する刑事法学からの検討」
季刊刑事弁護99号 87頁 (2019年7月)

「平成の刑法判例」

刑事法ジャーナル61号 25頁 (2019年 8月)

「危惧感説と具体的予見可能性説の異同再論：

長野地松本支判平成31・3・25平成26年(わ)第260号を素材として」

立命館法学385号 78頁 (2019年12月)

「不法残留者との同居と不法残留の幫助」

立命館法学387=388号 367頁 (2020年 3月)

「自動運転と法」

学術の動向25巻 5号 58頁 (2020年 5月)

「ヒトの行動と刑罰」

条件反射制御法研究 8号 40頁 (2020年 8月)

「国家改造と刑事司法」

法の科学51号 71頁 (2020年 9月)

「ノヴァ型再審における総合評価：

大崎事件第三次再審請求特別抗告審決定を契機として」

石田倫識, 伊藤陸, 斎藤司, 関口和徳, 瀧野貴生編

『大出良知・高田昭正・川崎英明・白取祐司先生古稀祝賀論文集

刑事法学と刑事弁護の協働と展望』

(現代人文社) 76頁 (2020年12月)

「キセル乗車と電子計算機使用詐欺罪の成否について」

立命館法学392号 1頁 (2021年 2月)

「『救助的因果経過の阻止』についての一考察：最決令和2・8・24を素材に」

立命館法学393=394号 645頁 (2021年 3月)

「リストの犯罪体系と『二元主義』」

犯罪と刑罰30号 131頁 (2021年 3月)

「学問の自由を侵害する学術会議会員任命拒否」

上脇博之, 阪口徳雄, 前川喜平, 小野寺義象,

石戸谷豊, 岡田正則, 松宮孝明著

『ストップ!! 国政の私物化』(あけび書房) 193頁 (2021年 4月)

「学術会議会員任命拒否問題と『学問の自由』」

人権と部落問題947号 6頁 (2021年 5月)

「自動運転をめぐる刑事法的諸問題」

立命館法学395号 1頁 (2021年 6月)

- 「性犯罪規定の改正をめぐる議論について」
犯罪社会学研究46号 121頁 (2021年10月)
- 「司法作用ないし犯人庇護の罪をめぐる問題状況」
刑事法ジャーナル70号 4頁 (2021年11月)
- 「法治の危機と学術の軽視」
世界951号 98頁 (2021年12月)
- 「今日における刑罰の体系と刑罰論についての覚え書き」
浅田和茂, 井田良, 白取祐司, 長井圓, 丸山雅夫, 吉田敏雄編
『刑事法学の系譜 内田文昭先生米寿記念』
(信山社) 57頁 (2022年1月)
- 「治療的司法と刑罰との対話」
治療的司法ジャーナル5号2頁 (2022年3月)
- 「実行の着手, とりわけ『形式的客観説』について」
山口厚, 井田良, 佐伯仁志, 松原芳博, 仲道祐樹編
『高橋則夫先生古稀祝賀論文集 上巻』
(成文堂) 579頁 (2022年3月)
- 「購入代金支払前の『商品』の費消と『不法領得の意思』:
名古屋高判令和3・12・14を素材として」
立命館法学399=400号 874頁 (2022年3月)
- 「日本学術会議会員任命拒否事件の現段階」
芦名定道, 宇野重規, 岡田正則, 小沢隆一, 加藤陽子, 松宮孝明著
『学問と政治 学術会議任命拒否問題とは何か』〔岩波新書〕
(岩波書店) 87頁 (2022年4月)
- 「窃盗と遺失物等横領とにおける『不法領得』:
大阪高判令和3・12・10および福岡高判令和3・3・29を素材に」
立命館法学401号 142頁 (2022年6月)
- 「『タトゥー事件』からみる『医行為』と刑罰による『医業』独占の意味」
年報医事法学37号 27頁 (2022年9月)
- 「『他者による葬祭可能性の減少』と死体遺棄:
福岡高判令和4・1・19の問題点について」
立命館法学404号 1頁 (2023年2月)

判例評釈・判例研究

- 「優生保護法上の指定医師に対して業務上墮胎，保護責任者遺棄致死，死体遺棄の併合罪の成立を認めた事例」（那覇地裁石垣支判昭和 57・3・15）
甲南法学24巻2号 189頁（1984年3月）
- 「給油作業の過誤による火災発生の予見可能性が肯定された事例：危惧感と予見可能性の関係」（最二小決昭和 57・11・8）
甲南法学25巻1号 35頁（1984年11月）
- 「自己の共犯者を隠蔽匿した行為が犯人隠蔽匿罪にあたりとされた事例」（旭川地判昭和 57・9・29）
甲南法学25巻2号 53頁（1985年1月）
- 「不燃性建造物に対する放火における『焼燬』の概念」（東京地判昭和 59・6・22）
甲南法学26巻1号 79頁（1985年8月）
- 「川崎がけ崩れ実験事故判決」（横浜地判昭和 62・3・26）
法学教室83号 87頁（1987年8月）
- 「過失の共同正犯」（名古屋高判昭和 61・9・30）
法学教室89号別冊付録〈判例セレクト'87〉28頁（1988年2月）
- 「防火管理責任と過失結果犯：千日ビル火災事件控訴審判決（大阪高裁昭和 62・9・28）」
ジュリスト904号 72頁（1988年3月）
- 「川治プリンスホテル火災事件控訴審判決とホテルニュージャパン火災事件第一審判決」（東京高判昭和 62・2・12，東京地判昭和 62・5・20）
南山法学12巻1号 151頁（1988年7月）
- 「『信頼の原則』と『クリーンハンドの法則』」（名古屋高判昭和 61・4・8）
犯罪と刑罰5号 99頁（1988年10月）
- 「すでに本犯の嫌疑で逮捕勾留されている者に対する犯人隠避罪の成否」（福岡高判昭和 63・1・28）
南山法学12巻2-3号 75頁（1988年12月）
- 「千日デパートビル火災と管理・監督責任」（大阪高判昭和 62・9・28）
法学教室101号別冊付録〈判例セレクト'88〉29頁（1989年2月）
- 「大洋デパート火災と管理・監督責任」（福岡高判昭和 63・6・28）
法学教室113号別冊付録〈判例セレクト'89〉31頁（1990年2月）

「注意義務の業務性：薬師堂火災事件」(東京高判昭和47・7・21)

芦部信喜, 若原茂編

別冊ジュリスト109号『宗教判例百選〔第2版〕』144頁(1991年1月)

「大規模火災事件における予見可能性：川治プリンスホテル火災最高裁決定」

(最一小決平成2・11・16)

法学教室126号62頁(1991年3月)

「監督過失(3)：北ガス事件」(札幌地判昭和61・2・13)

平野龍一, 松尾浩也, 芝原邦爾編

別冊ジュリスト111号『刑法判例百選Ⅰ総論〔第3版〕』122頁(1991年4月)

「建造物以外放火罪における『公共の危険』」(浦和地判平成2・11・22)

法学教室138号別冊付録〈判例セレクト'91〉38頁(1992年3月)

「千日ビル火災上告審決定」(最一小決平成2・11・29)

甲南法学32巻1=2号83頁(1992年3月)

「補助公務員の作成権限」(最一小判昭和51・5・6)

平野龍一, 松尾浩也, 芝原邦爾編

別冊ジュリスト117号『刑法判例百選Ⅱ各論〔第3版〕』162頁(1992年4月)

「公訴時効の起算点：熊本水俣病事件」(最三小決昭和63・2・29)

松尾浩也, 井上正仁編

別冊ジュリスト119号『刑事訴訟法判例百選〔第6版〕』78頁(1992年11月)

「民間航空会社に特定機種を選定購入を勧奨するよう運輸大臣に働きかける行為は内閣総理大臣の職務権限に属するか【肯定】 ロッキード事件(丸紅ルート)」(最大判平成7・2・22ジュリスト1063号147頁)(大山弘と共著)

法学セミナー485号79頁(1995年5月)

「患者の家族の強い要請に基づき、末期癌患者に塩化カリウムを注射して死亡させた医師の行為は『安楽死』として許されるか【否定】 東海大学付属病院『安楽死』事件」(横浜地判平成7・3・28)(大山弘と共著)

法学セミナー487号81頁(1995年7月)

「参考人が捜査官に対して虚偽の供述をしその内容を供述調書に録取させた行為は証拠偽造罪に当たるか【否定】 参考人虚偽供述事件」(千葉地判平成7・6・2)(大山弘と共著)

法学セミナー490号81頁(1995年10月)

- 「客観的な注意義務違反はあるが因果経路の基本的部分の予見可能性がない場合に、業務上失火罪、業務上過失致死傷罪は成立するか【否定】
生駒トンネル火災事件」(大阪地判平成7・10・6)(大山弘と共著)
法学セミナー495号79頁(1996年3月)
- 「小銃部品を自動車に積み替えるために雑居ビルの屋内半地下駐車場に立ち入る行為は建造物侵入罪に当たるか【肯定】 オウム信者地下駐車場侵入事件」(東京地判平成7・10・12)(大山弘と共著)
法学セミナー496号77頁(1996年4月)
- 「内容に改ざんを加えた公文書をファクシミリで送付して作った写は偽造公文書となるか【否定】 改ざん公文書ファクシミリ送信事件」(岡山地判平成7・11・20)(大山弘と共著)
法学セミナー499号66頁(1996年7月)
- 「自動車競技練習中の衝突・転倒により同乗者を死亡させる結果になった運転が同乗者による危険の引き受けを理由に正当化されることがありうるか【肯定】 ダートトライアル同乗者死亡事件」(千葉地判平成7・12・13判時1565号144頁)(大山弘と共著)
法学セミナー503号74頁(1996年11月)
- 「身体を拘束された状態で『できなければお前を殺す』と言われて実行した殺人行為は緊急避難に当たるか【否定】 オウム真理教元薬剤師殺害事件」(東京地判平成8・6・26)(大山弘と共著)
法学セミナー504号78頁(1996年12月)
- 「歯科小児患者殴打事件」(大阪高判昭和52・12・23)
唄孝一、宇都木伸、平林勝政編
別冊ジュリスト140号『医療過誤判例百選〔第2版〕』196頁(1996年12月)
- 「監督過失(2):北ガス事件」(札幌地判昭和61・2・13)
松尾浩也、芝原邦爾、西田典之編
別冊ジュリスト142号『刑法判例百選Ⅰ総論〔第4版〕』118頁(1997年4月)
- 「補助公務員の作成権限」(最一小判昭和51・5・6)
松尾浩也、芝原邦爾、西田典之編
別冊ジュリスト143号『刑法判例百選Ⅱ各論〔第4版〕』166頁(1997年5月)

- 「行為時の最高裁判例によれば無罪となる行為を判例変更して処罰することは憲法三九条(遡及処罰禁止)に違反するか【否定】 岩手県教組同盟罷業事件第二次上告審判決」(最二小判平成8・11・18)(大山弘と共著)
法学セミナー510号84頁(1997年6月)
- 「児童による淫行の相手方となる行為は児童福祉法34条1項6号の『児童に淫行をさせる行為』に当たるか【肯定】 児童福祉法違反事件」(東京高判平成8・10・30)(大山弘と共著)
法学セミナー515号74頁(1997年11月)
- 「『急迫不正の侵害』の終了時期と防衛行為の相当性」(最二小判平成9・6・16)
法学教室208号110頁(1998年1月)
- 「公選法一九九条の二の寄附罪の成立には、寄附を受ける者に候補者等からの寄附であることの認識があることは必要か【否定】 公職選挙法違反被告事件」(最二決平成9・4・7)(大山弘と共著)
法学セミナー518号70頁(1998年2月)
- 「公職選挙法上の公職の候補者等による寄附罪と寄附を受ける者における寄附主体の認識の要否」(最二小判平成9・4・7)
立命館法学255号315頁(1998年2月)
- 「被害者の発見・認知が可能な地点で被告人が回避措置を取ったとしても衝突を回避できた可能性がなく、また、本件事故を確実に回避するために必要な制限速度を下回る時速約三六キロメートルで走行する義務を課すこともできないとして、被告人の過失が否定された事例」(千葉地判平成7・7・26)
判例評論472号57頁〔判例時報1634号219頁〕(1998年6月)
- 「訴因の明示: 覚せい剤の自己使用」(最一小決昭和56・4・25)
松尾浩也, 井上正仁編
別冊ジュリスト148号『刑事訴訟法判例百選〔第7版〕』98頁(1998年8月)
- 「高圧ケーブルの接地不良を原因とする火災において、火災発見の理化学的なメカニズムは予見可能性の対象たるべき因果経過の基本的部分に属するか【否定】 生駒トンネル火災事件控訴審判決」(大阪高判平成10・3・25)(大山弘と共著)
法学セミナー525号82頁(1998年9月)
- 「被告人本人の顔写真が貼付されたうえ偽名および虚偽の住所等が記載された履歴書等が偽造文書とされた事例」(東京高判平成9・10・20)
法学教室222号別冊付録〈判例セレクト'98〉32頁(1999年3月)

- 「自己名義使用の承諾と私文書偽造罪の共謀共同正犯」（東京地判平成 10・8・19）
法学セミナー535号 102頁（1999年7月）
- 「日雇労働被保険者手帳不正受交付事件」（神戸地判平成 11・1・12）
法学セミナー538号 105頁（1999年10月）
- 「保管中の書類資料のコピー目的での持ち出しと横領罪」（東京地判平成 10・7・7）
法学セミナー541号 108頁（2000年1月）
- 「不作為による幫助の成否（東京高判平成 11・1・29）」
法学セミナー544号 108頁（2000年4月）
- 「法令の整合性と罪刑の均衡」（東京高判平成 11・3・12）
ジュリスト臨時増刊1179号『平成11年度重要判例解説』146頁（2000年6月）
- 「刑の軽重：罰金と拘留」（最一小決平成 11・4・8）
法学セミナー547号 109頁（2000年7月）
- 「表示のない時差式信号機と信頼の原則」（東京高判平成 11・12・27）
法学セミナー551号 115頁（2000年11月）
- 「日雇労働被保険者手帳不正受交付事件控訴審判決」（大阪高判平成 11・12・10）
法学セミナー555号 105頁（2001年3月）
- 「トンネル火災事故の予見可能性：生駒トンネル火災事故事件上告審決定」
（最二小決平成 12・12・20）
法学セミナー559号 110頁（2001年7月）
- 「不動産侵奪罪における『侵奪』の意義」（最判平成 12・12・15）
法学セミナー563号 106頁（2001年11月）
- 「刑事未成年者を利用した強盗の間接正犯でなく共同正犯が認められた事例」
（最一決平成 13・10・25）
法学セミナー567号 110頁（2002年3月）
- 「法定代理の場合の私文書偽造」（東京高判平成 12・2・8）
法学セミナー571号 109頁（2002年7月）
- 「盗品等の被害者を相手方としてする盗品等処分あっせん罪の成否」
（最決平成 14・7・1）
法学セミナー575号 119頁（2002年11月）
- 「他人の名前で預金口座を開設し銀行窓口係員から預金通帳の交付を受ける
行為と詐欺罪の成否」（最決平成 14・10・21）
法学セミナー579号 107頁（2003年3月）

- 「他人の行為の介入と因果関係(3)」(最三小決平成2・11・20)
芝原邦爾, 西田典之, 山口厚編
別冊ジュリスト166号『刑法判例百選Ⅰ総論〔第5版〕』28頁(2003年4月)
- 「詐欺罪と財産上の損害(3)」(最二小決平成12・3・27)
芝原邦爾, 西田典之, 山口厚編
別冊ジュリスト167号『刑法判例百選Ⅱ各論〔第5版〕』94頁(2003年4月)
- 「誤振込を知った受取人がその情を秘して預金の払戻しを受けた場合と詐欺罪の成否」(最決平成15・3・12)
法学セミナー583号117頁(2003年7月)
- 「刑法47条による併合罪加重の方法 新潟監禁事件上告審判決」(最判平成15・7・10)
法学セミナー587号116頁(2003年11月)
- 「誤振込みを知った受取人がその情を秘して預金の払戻しを受けた場合と詐欺罪の成否」(最二小決平成15・3・12)
法学教室279号132頁(2003年12月)
- 「犯行のために使用した航空券の価額追徴の可否」(最判平成15・4・11)
法学セミナー591号118頁(2004年3月)
- 「特別公務員暴行陵虐罪と被害者の承諾」(東京高判平成15・1・29)
法学セミナー595号121頁(2004年7月)
- 「標示のない時差式信号機がある交差点での右折事故と『信頼の原則』」(最三小決平成16・7・13)
法学セミナー599号121頁(2004年11月)
- 「詐欺罪における不法領得の意思が認められないとされた事例」(最二小決平成16・11・30)
法学セミナー603号121頁(2005年3月)
- 「相当の対価で根抵当権を放棄させる行為と詐欺罪の成否」(最三小決平成16・7・7)
ジュリスト臨時増刊1291号『平成16年度重要判例解説』167頁(2005年6月)
- 「明石歩道橋事故第一審判決」(神戸地判平成16・12・17)
法学セミナー607号121頁(2005年7月)
- 「不作為による殺人罪」(最二小決平成17・7・4)
法学セミナー611号119頁(2005年11月)

- 「『母体行責任』と背任」(大阪高判平成 17・4・28)
法学セミナー615号 124頁 (2006年 3月)
- 「児童淫行罪と児童ポルノ製造罪の罪数関係」(東京高判平成 17・12・26)
法学セミナー619号 118頁 (2006年 7月)
- 「他車を高速道路上で停止させた行為と追突事故による死傷結果との間の因果関係」(最三小決平成 16・10・19)
判例評論571号 40頁 [判例時報1934号 210頁] (2006年 9月)
- 「医員派遣に関する汚職」(最二小決平成 18・1・23)
宇都木伸, 町野朔, 平林勝政, 甲斐克則編
別冊ジュリスト183号『医事法判例百選』28頁 (2006年 9月)
- 「内縁の配偶者に対する刑法244条1項(親族相盗例)の適用を否定した事例」
(最二小決平成 18・8・30)
法学セミナー623号 120頁 (2006年11月)
- 「ピラ配布目的でのマンション共用部立入りにつき住居侵入罪の成立を否定した事例 葛飾ピラ配布事件第一審判決」(東京地判平成 18・8・28)
法学セミナー627号 117頁 (2007年 3月)
- 「競売等妨害罪の公訴時効の起算点」(最決平成 18・12・13)
法学セミナー631号 119頁 (2007年 7月)
- 「公共工事に関して用途を限定された預金の払出しと詐欺罪」(最二小決平成 19・7・10)
法学セミナー635号 107頁 (2007年11月)
- 「侵害の急迫性」(最一小決昭和 52・7・21)
西田典之, 山口厚, 佐伯仁志編
別冊ジュリスト189号『刑法判例百選Ⅰ総論〔第6版〕』48頁 (2008年 2月)
- 「ピラ配布目的での分譲マンション共用部分への立入りと住居侵入罪の成否 葛飾ピラ配布事件控訴審判決」(東京高判平成 19・12・11)
法学セミナー639号 113頁 (2008年 3月)
- 「背任罪における『事務処理者』の意義」(最二小判昭和 31・12・7)
西田典之, 山口厚, 佐伯仁志編
別冊ジュリスト190号『刑法判例百選Ⅱ各論〔第6版〕』138頁 (2008年 3月)
- 「ピラ配布目的の防衛庁宿舍立入りと邸宅侵入罪の成否 立川自衛隊官舎事件」(最二小判平成 20・4・11)
法学セミナー643号 123頁 (2008年 7月)

- 「親族である後見人による横領と親族相盗例」(最一小決平成20・2・18)
法学セミナー647号128頁(2008年11月)
- 「警察官とのけん銃の奪い合いに関して強盗罪の成立を認めた事例」
(名古屋高判平成20・10・21)
法学セミナー651号125頁(2009年3月)
- 「薬害エイズ事件厚生省ルート最高裁決定」(最二小決平成20・3・3)
判例評論602号41頁〔判例時報2030号187頁〕(2009年4月)
- 「譲渡・売却目的を秘した銀行口座開設に詐欺罪の成立が認められた事例」
(最三決平成19・7・17刑集61巻5号521頁)
立命館法学323号235頁(2009年6月)
- 「不実の抵当権設定仮登記と横領罪」(最二小決平成21・3・26)
法学セミナー655号123頁(2009年7月)
- 「薬害エイズ事件厚生省ルート最高裁決定」(最二決平成20・3・3)
年報医事法学24号158頁(2009年7月)
- 「建造物を囲む塀に登る行為と建造物侵入罪」(最一小決平成21・7・13)
法学セミナー659号127頁(2009年11月)
- 「中立的行為と共犯 Winny 事件控訴審判決」(大阪高判平成21・10・8)
法学セミナー663号123頁(2010年3月)
- 「原判決確定後の免訴事由発生と再審判決：横浜事件再審最高裁判決(最二
判平成20・3・14刑集62巻3号185頁)」
立命館法学329号242頁(2010年6月)
- 「不特定・多数人を対象とする街頭募金詐欺と詐欺罪の罪数」(最二小決
平成22・3・17)
法学セミナー667号123頁(2010年7月)
- 「明石歩道橋事故事件上告審決定」(最一小決平成22・5・31)
法学セミナー671号135頁(2010年11月)
- 「観賞ないしは記念のための家系図と行政書士法にいう『事実証明に関する
書類』」(最一小判平成22・12・20)
法学セミナー675号123頁(2011年3月)
- 「雑踏警備において機動隊等の警察の出動を要請すべき注意義務が警察署地
域官および警備会社支社長に認められた事例(明石歩道橋事故事件最高裁
決定)」(最一小決平成22・5・31)
法学セミナー増刊 速報判例解説 Vol. 8 203頁(2011年4月)

- 「検察官によるフロッピーディスク内文書ファイルの更新日時改ざんと証拠変造」(大阪地判平成 23・4・12)
法学セミナー679号 121頁 (2011年7月)
- 「家庭裁判所から精神鑑定を命じられた医師が、ジャーナリストに対し、供述調書等を閲覧させるなどした行為が、秘密漏示罪に当たるとされた事例(奈良地判平成 21・4・15 判時2048号135頁, 有罪・控訴)」
立命館法学337号 487頁 (2011年10月)
- 「明石砂浜陥没事件差戻後第一審判決」(神戸地判平成 23・3・10)
法学セミナー683号 127頁 (2011年12月)
- 「弁護士による会社再建策の助言と強制執行妨害幫助」(最三小決平成 23・12・6)
法学セミナー687号 161頁 (2012年4月)
- 「三菱自動車車輪脱落事件最高裁決定」(最三小決平成 24・2・8)
法学セミナー691号 157頁 (2012年8月)
- 「三菱自工車両車輪脱落事件最高裁決定(最決平成 24・2・8 裁時1549号14頁(上告棄却・確定))」
立命館法学343号 601頁 (2012年10月)
- 「虐待目的を隠して猫を譲り受けた行為と詐欺罪」(横浜地川崎支判平成 24・5・23)
法学セミナー695号 131頁 (2012年12月)
- 「『判例違反』の意味 『堀越事件』最高裁判決」(最二小判平成 24・12・7)
法学セミナー699号 145頁 (2013年4月)
- 「医師が鑑定の過程で知り得た秘密を漏らす行為と秘密漏示罪」(最二小決平成 24・2・13)
ジュリスト臨時増刊1453号『平成24年度重要判例解説』159頁 (2013年4月)
- 「規範的要素の認識 陸山会起訴強制事件控訴審判決」(東京高判平成 24・11・12)
法学セミナー703号 147頁 (2013年8月)
- 「公訴時効停止要件としての『共犯』の意味」(神戸地判平成 25・2・20)
法学セミナー707号 117頁 (2013年12月)
- 「薬害と専門医の注意義務 薬害エイズ事件帝京大ルート」(東京地判平成 13・3・28)
甲斐克則, 手嶋豊編
別冊ジュリスト219号『医事法判例百選〔第2版〕』30頁 (2014年3月)

- 「強要（または強制された）緊急避難」（東京高判平成24・12・18）
法学セミナー711号137頁（2014年4月）
- 「囑託の誤想と囑託殺人罪の適用」（函館地判平成26・4・30）
法学セミナー715号151頁（2014年8月）
- 「被害者の同意」（最二小決昭和55・11・13）
山口厚，佐伯仁志編
別冊ジュリスト220号『刑法判例百選Ⅰ総論〔第7版〕』46頁（2014年8月）
- 「公共の危険の意義」（最三小決平成15・4・14）
山口厚，佐伯仁志編
別冊ジュリスト221号『刑法判例百選Ⅱ各論〔第7版〕』170頁（2014年8月）
- 「裁判員裁判での量刑が上告審で破棄された事例」（最一小決平成26・7・24）
法学セミナー719号111頁（2014年12月）
- 「電子計算機使用詐欺の間接正犯」（岐阜地判平成24・4・12）
法学セミナー723号137頁（2015年4月）
- 「明石歩道橋事故強制起訴事件控訴審判決」（大阪高判平成26・4・23）
法学セミナー増刊 速報判例解説 Vol. 16
新・判例解説 Watch 163頁（2015年4月）
- 「身に覚えのない振込金員の払戻しと銀行に対する財産犯」（大阪高判平成
25・6・12）
法学セミナー727号121頁（2015年8月）
- 「陸山会事件（議員秘書関係）上告審決定」（最三小決平成26・9・30）
法学セミナー増刊 速報判例解説 Vol. 17
新・判例解説 Watch 199頁（2015年10月）
- 「同時傷害の特例の適用範囲」（名古屋高判平成27・4・16）
法学セミナー731号115頁（2015年12月）
- 「公訴時効廃止の遡及適用と事後法の禁止」（最一小判平成27・12・3）
法学セミナー735号113頁（2016年4月）
- 「両罰規定における『代理人』等の直接行為者の意味」（最二決平成27・12・14）
法学セミナー739号121頁（2016年8月）
- 「福知山線脱線事故 JR3社長控訴審判決」（大阪高判平成27・3・27）
法学セミナー増刊 速報判例解説 Vol. 19
新・判例解説 Watch 199頁（2016年10月）

- 「両罰規定における『代理人』の意味」(最二小決平成 27・12・14)
法学セミナー増刊 速報判例解説 Vol. 19
新・判例解説 Watch 203頁 (2016年10月)
- 「過失犯の共同正犯 明石歩道橋事故強制起訴事件上告審決定」(最三小決
平成 28・7・12)
法学セミナー743号 123頁 (2016年12月)
- 「過失犯における予見可能性 澁谷温泉爆発事故事件上告審決定」(最一決
平成 28・5・25)
法学セミナー747号 125頁 (2017年4月)
- 「福知山線脱線事故強制起訴事件最高裁決定」(最二小決平成 29・6・12)
法学セミナー751号 121頁 (2017年8月)
- 「澁谷温泉施設爆発事故最高裁決定」(最一小決平成 28・5・25)
法学セミナー増刊 速報判例解説 Vol. 21
新・判例解説 Watch 181頁 (2017年10月)
- 「選挙運動の共謀と規範的構成要件要素の認識」(東京高判平成 29・5・18)
法学セミナー755号 113頁 (2017年12月)
- 「『だまされたふり作戦』と見破られた後に関与した『受け子』の罪責」
(最三小決平成 29・12・11)
法学セミナー759号 123頁 (2018年4月)
- 「危険運転致死傷罪における『通行妨害目的』の意味」(大阪高判平成 28・12・13)
法学セミナー増刊 速報判例解説 Vol. 22
新・判例解説 Watch 177頁 (2018年4月)
- 「福知山線脱線事故強制起訴事件上告審決定」(最二小決平成 29・6・12)
法学セミナー増刊 速報判例解説 Vol. 22
新・判例解説 Watch 181頁 (2018年4月)
- 「真正身分犯の成否 破産法上の虚偽説明罪」(東京地判平成 30・3・16)
法学セミナー763号 125頁 (2018年8月)
- 「詐欺未遂において加担後の行為が有する危険の判断方法」(大阪高判平成
29・10・10)
法学セミナー767号 127頁 (2018年12月)
- 「内縁関係と不法残留罪の幫助」(東京地判平成 30・10・19)
法学セミナー771号 133頁 (2019年4月)

「詐欺未遂において加担後の行為が有する危険の判断方法」(大阪高判平成
29・10・10)

法学セミナー増刊 速報判例解説 Vol. 24
新・判例解説 Watch 165頁(2019年4月)

『キャッシュカードすり替え作戦』と窃盗・詐欺の区別」(京都地判
令和1・5・7)

法学セミナー775号 121頁(2019年8月)

「内縁関係と不法残留罪の帮助(控訴審逆転無罪判決)」(東京高判令和1・7・12)

法学セミナー779号 119頁(2019年12月)

『あおり運転』と危険運転致死傷罪」(横浜地判平成30・12・14)

法学セミナー増刊 速報判例解説 Vol. 26
新・判例解説 Watch 175頁(2020年4月)

「東京電力旧経営陣第一審判決について」(東京地判令和1・9・19)

刑事法ジャーナル64号 4頁(2020年5月)

「被害者の一部について殺人の故意を否定した東京高裁判決」(東京高判
令和1・12・17)

法学セミナー増刊 速報判例解説 Vol. 27
新・判例解説 Watch 169頁(2020年10月)

「強要された緊急避難」(東京高判平成24・12・18)

佐伯仁志, 橋爪隆編

別冊ジュリスト250号『刑法判例百選Ⅰ総論〔第8版〕』64頁(2020年11月)

「公共の危険の意義」(最三小決平成15・4・14)

佐伯仁志, 橋爪隆編

別冊ジュリスト251号『刑法判例百選Ⅱ各論〔第8版〕』72頁(2020年11月)

「偽名の記入および使用につき私印偽造・同使用の罪を否定した京都地裁判決」
(京都地判令和2・6・25)

法学セミナー増刊 速報判例解説 Vol. 28
新・判例解説 Watch 199頁(2021年4月)

「キセル乗車と電子計算機使用詐欺罪の成否」(名古屋高判令和2・11・5)

法学セミナー増刊 速報判例解説 Vol. 28
新・判例解説 Watch 211頁(2021年4月)

「被害者の一部について殺人の故意を否定した原判決を破棄した最高裁判決」
(最二小判令和3・1・29)

法学セミナー増刊 速報判例解説 Vol. 29
新・判例解説 Watch 211頁 (2021年10月)

「労働組合活動に対する強要未遂罪の適用の可否：全日本建設運輸連帯労働
組合関西地区生コン支部『加茂生コン(村田建材)事件』控訴審判決」
(大阪高判令和3・12・13)

労働法律旬報2004号 49頁 (2022年3月)

『すり替え作戦』における窃盗罪の実行の着手」(東京高判令和3・3・11)

法学セミナー増刊 速報判例解説 Vol. 30
新・判例解説 Watch 203頁 (2022年4月)

「住居の敷地への立入りが住居侵入罪に当たらないとされた事例」(大阪高判
令和3・7・16)

法学セミナー増刊 速報判例解説 Vol. 30
新・判例解説 Watch 207頁 (2022年4月)

『すり替え作戦』における窃盗罪の実行の着手に関する最高裁決定」(最三
小決令和4・2・14)

法学セミナー増刊 速報判例解説 Vol. 31
新・判例解説 Watch 187頁 (2022年10月)

「窃盗と遺失物等横領とにまたがる錯誤と『縮小認定』」(大阪高判令和3・12・10)

法学セミナー増刊 速報判例解説 Vol. 31
新・判例解説 Watch 195頁 (2022年10月)

「遺失物等横領罪における『不法領得』とその意思」(福岡高判令和3・3・29)

法学セミナー増刊 速報判例解説 Vol. 31
新・判例解説 Watch 199頁 (2022年10月)

外国判例研究

「鉄道営業行為自体の違法性：『許された危険』論の前提的考察のために」

OAG zu München vom 16. 4. 1861. Seuffert Archiv, Bd. 14. S. 354ff.

関西大学大学院法学ジャーナル32号 99頁 (1981年12月)

「義務違反的態度の原因性」

BGH, Urt. v. 15. 10. 1981—4StR 398/81 NJW1 NJW 1982, S. 292

関西大学大学院法学ジャーナル36号 183頁 (1983年3月)

「交通事故と速度違反との法的因果関係」

BGH, Beschl. v. 6. 11. 1984—4StR 72/84, BGHSt. 33, 61=NJW 1985, 1350.

関西大学大学院法学ジャーナル46号 132頁 (1986年9月)

解説・講座・演習(連載を含む)

◎法学教室 連載「演習 刑法」

「『犯罪』と共犯との関係」

法学教室223号 116頁 (1999年4月)

「正犯概念ないし正犯と共犯との関係」

法学教室224号 130頁 (1999年5月)

「共犯従属性説と共犯独立性説または実行従属性ないし教唆の未遂」

法学教室225号 134頁 (1999年6月)

「共犯の処罰根拠ないし未遂の教唆」

法学教室226号 142頁 (1999年7月)

「共犯の処罰根拠と自己所有物の窃盗教唆」

法学教室227号 114頁 (1999年8月)

「正犯基準と『被害者の自己答責性』」

法学教室228号 138頁 (1999年9月)

「正犯基準と共謀共同正犯」

法学教室229号 128頁 (1999年10月)

「間接正犯と故意ある道具, 収受概念」

法学教室230号 120頁 (1999年11月)

「日常取引と共犯および身分犯・必要的共犯の共犯」

法学教室231号 104頁 (1999年12月)

「強制と緊急避難」

法学教室232号 122頁 (2000年1月)

「対物防衛と法秩序の統一性」

法学教室233号 154頁 (2000年2月)

「正当防衛の『相当性』: 西船橋駅事件」

法学教室234号 116頁 (2000年3月)

「法秩序の統一性と債権債務関係」

法学教室235号 136頁 (2000年4月)

- 「役に立たなかった正当防衛」
法学教室236号 130頁 (2000年 5月)
- 「正当防衛に対する緊急避難と緊急避難に対する正当防衛」
法学教室237号 152頁 (2000年 6月)
- 「期待可能性の標準, 免責的緊急避難」
法学教室238号 132頁 (2000年 7月)
- 「過失の標準」
法学教室239号 136頁 (2000年 8月)
- 「信頼の原則の意味」
法学教室240号 124頁 (2000年 9月)
- 「異種の構成要件間の錯誤と故意の符合」
法学教室241号 172頁 (2000年10月)
- 「方法の錯誤と法定的符合説」
法学教室242号 166頁 (2000年11月)
- 「予見可能性の対象」
法学教室243号 124頁 (2000年12月)
- 「中止犯と共犯」
法学教室244号 114頁 (2001年 1月)
- 「不作為の因果力と夫婦間の犯罪阻止義務」
法学教室245号 124頁 (2001年 2月)
- 「因果関係と客観的帰属」
法学教室246号 92頁 (2001年 3月)
- 「条文解釈のしかた」(特集 法律的に考えよう！)
法学セミナー545号 26頁 (2000年 5月)
- 「刑法的論点 因果関係, 期待可能性」(特集 刑事法のプロセスがわかる)
法学セミナー551号 9頁 (2000年11月)
- 「主観的違法要素って何だろう？」(特集 『人の意思』から刑法を学ぶ)
法学セミナー567号 7頁 (2002年 3月)
- 「故意・過失」(特集 ファーストキット刑法総論)
法学セミナー571号 16頁 (2002年 7月)
- ◎現代刑事法 連載「プログラム演習・刑法」
「第1講 刑法は何のために存在するのか？」
現代刑事法54号 74頁 (2003年10月)

- 〔第2講 どのような行為が犯罪とされるべきであろうか?〕
現代刑事法56号 90頁 (2003年12月)
- 〔第3講 刑法における『行為』や『犯罪』とは何だろうか?〕
現代刑事法58号 99頁 (2004年2月)
- 〔第4講 『行為無価値』と『結果無価値』って何?〕
現代刑事法60号 99頁 (2004年4月)
- 〔第5講 『犯罪の体系』って何?〕
現代刑事法64号 118頁 (2004年8月)
- 〔第6講 『因果関係』とか『客観的帰属』って何?〕
現代刑事法66号 102頁 (2004年10月)
- 〔第7講 『不真正不作為犯』って何?〕
現代刑事法68号 110頁 (2004年12月)
- 〔刑法 無価値〕(特集 法学入門——法律学の「言葉」)
法学セミナー605号 34頁 (2005年5月)
- ◎法学セミナー 連載「現代刑法の理論と実務——総論」
- 〔〔第1回〕理論は実務にとってなぜ重要なのか〕
法学セミナー759号 65頁 (2018年4月)
- 〔〔第2回〕『行為』論と『構成要件』論〕
法学セミナー760号 98頁 (2018年5月)
- 〔〔第3回〕因果関係と客観的帰属〕
法学セミナー761号 100頁 (2018年6月)
- 〔〔第4回〕違法性〕
法学セミナー762号 87頁 (2018年7月)
- 〔〔第5回〕正当防衛の正当性〕
法学セミナー763号 91頁 (2018年8月)
- 〔〔第6回〕緊急避難の法的性質〕
法学セミナー764号 83頁 (2018年9月)
- 〔〔第7回〕故意と錯誤〕
法学セミナー765号 92頁 (2018年10月)
- 〔〔第8回〕過失と『客観的帰属』〕
法学セミナー766号 91頁 (2018年11月)
- 〔〔第9回〕未遂・未完成犯罪〕
法学セミナー767号 95頁 (2018年12月)

- [[第10回] 共同正犯]
法学セミナー768号 95頁 (2019年 1 月)
- [[第11回] 狭義の共犯]
法学セミナー769号 94頁 (2019年 2 月)
- [[第12回] 間接正犯および共犯論の諸問題]
法学セミナー770号 80頁 (2019年 3 月)
- [[第13回・最終回] 罪数論と刑罰論]
法学セミナー771号 106頁 (2019年 4 月)
- ◎法学セミナー 連載「現代刑法の理論と実務——各論」
- [[第 1 回] 各論の総論]
法学セミナー777号 56頁 (2019年10月)
- [[第 2 回] 生命に対する罪]
法学セミナー778号 91頁 (2019年11月)
- [[第 3 回] 傷害・遺棄の罪]
法学セミナー779号 92頁 (2019年12月)
- [[第 4 回] 強制わいせつの罪, 住居・秘密を侵す罪]
法学セミナー780号 86頁 (2020年 1 月)
- [[第 5 回] 名誉に対する罪, 信用・業務に対する罪]
法学セミナー781号 98頁 (2020年 2 月)
- [[第 6 回] 財産犯の体系, 奪取罪の保護法益]
法学セミナー782号 100頁 (2020年 3 月)
- [[第 7 回] 窃盗・横領の罪 (領得罪)]
法学セミナー783号 90頁 (2020年 4 月)
- [[第 8 回] 強盗の罪]
法学セミナー784号 99頁 (2020年 5 月)
- [[第 9 回] 詐欺・恐喝の罪 (1)]
法学セミナー785号 87頁 (2020年 6 月)
- [[第10回] 詐欺・恐喝の罪 (2)]
法学セミナー786号 99頁 (2020年 7 月)
- [[第11回] 背任の罪]
法学セミナー787号 116頁 (2020年 8 月)
- [[第12回] 盗品等に関する罪, 毀棄および隠匿の罪]
法学セミナー788号 99頁 (2020年 9 月)

- 「〔第13回〕 公共危険犯，放火および失火の罪」
法学セミナー789号 96頁（2020年10月）
- 「〔第14回〕 偽造——『公共の信用』に対する罪」
法学セミナー790号 108頁（2020年11月）
- 「〔第15回〕 偽造（2），風俗犯」
法学セミナー791号 96頁（2020年12月）
- 「〔第16回〕 公務妨害の罪」
法学セミナー792号 84頁（2021年1月）
- 「〔第17回〕 司法作用に対する罪」
法学セミナー793号 104頁（2021年2月）
- 「〔第18回・最終回〕 汚職の罪」
法学セミナー794号 107頁（2021年3月）

分担執筆

- 「34 業務上過失——娯楽でも『業務』？」
- 「35 予見可能性——過失の中核的要素」
- 「36 過失犯の構造——故意犯とどこが違うのか」
- 「37 信頼の原則——他人を当てにしてよいか」
町野朔編『刑法キーワード』〔有斐閣双書〕（有斐閣）
〔初版〕72頁，74頁，76頁，78頁（1992年3月）
〔補訂版〕72頁，74頁，76頁，78頁（1996年4月）
- 「11 過失犯」
阿部純二，川端博編『基本問題セミナー刑法1 総論』
（一粒社）116頁（1992年5月）
- 「経済刑法と刑法の諸原則」
中山研一，神山敏雄，斉藤豊治編著『経済刑法入門』（成文堂）
〔初版〕145頁（1992年11月）
〔第2版〕183頁（1994年5月）
- 「経済刑法と刑法の諸原則」
- 「補助金・公的資金の詐欺および入札談合罪」
〔第3版〕37頁，195頁（1999年3月）

「第3編第4章 過失犯」

野村稔編『現代法講義 刑法総論』（青林書院）

〔初版〕288頁（1993年4月）

〔改訂版〕288頁（1997年4月）

「第8講 正当行為と被害者の同意」

「第9講 正当防衛」

「第10講 緊急避難」

「第15講 過失」

浅田和茂，齊藤豊治，佐久間修，松宮孝明，山中敬一著

『刑法総論』（青林法学双書）（青林書院）

〔初版〕110頁，127頁，146頁，222頁（1993年6月）

〔改訂版〕110頁，127頁，146頁，222頁（1997年3月）

「Ⅲ 犯罪類型 5. 過失」

西原春夫，新倉修，山口厚，井田良，松宮孝明編

『刑法マテリアルズ 資料で学ぶ刑法総論』（柏書房）177頁（1995年6月）

「第16講 公共に対する罪・総説および騒乱の罪」

「第17講 放火の罪および出水・水利に関する罪」

「第18講 往来妨害の罪」

「第19講 偽造の罪・総説および通貨偽造の罪」

「第20講 文書偽造の罪（印章偽造の罪を含む）および有価証券偽造の罪」

「第21講 わいせつの罪，賭博の罪および礼拝所・墳墓に関する罪」

浅田和茂，齊藤豊治，佐久間修，松宮孝明，山中敬一著

『刑法各論』（青林法学双書）（青林書院）

〔初版〕238頁，249頁，262頁，273頁，282頁，308頁（1995年12月）

〔補正版〕238頁，249頁，262頁，273頁，282頁，308頁（2000年4月）

「第2章5 犯罪は段階的に行われる」

「第2章6 犯罪は複数でも行われる」

「第2章7 犯罪の数を数える」

「第5章 国家に対する罪」

浅田和茂，内田博文，上田寛，松宮孝明著『現代刑法入門』（有斐閣アルマ）（有斐閣）

〔初版〕105頁，117頁，129頁，252頁（1996年11月）

〔第2版〕110頁，122頁，133頁，259頁（2004年4月）

〔第2版補訂〕110頁，122頁，133頁，261頁（2008年4月）

〔第3版〕112頁, 125頁, 136頁, 269頁(2012年4月)

〔第3版補訂〕115頁, 128頁, 139頁, 271頁(2014年9月)

〔第4版〕119頁, 132頁, 143頁, 279頁(2020年3月)

〔3 共犯の従属性〕

〔4 正犯概念〕

〔5 過失犯の正犯・共犯〕

〔11 共犯と身分〕

〔17 不作為と共犯〕

〔18 結果的加重犯と共犯〕

中山研一, 浅田和茂, 松宮孝明著『レヴィジョン刑法1 共犯論』(成文堂)

26頁, 40頁, 52頁, 117頁, 186頁, 194頁(1997年11月)

〔第1章 なぜ罪を犯すと処罰されなければならないのか〕

〔第2章 罪を犯したHの裁判〕

松井茂記, 松宮孝明, 曾野裕夫著

『はじめての法律学 HとJの物語』〔有斐閣アルマ〕(有斐閣)

〔初版〕4頁, 35頁(2000年3月)

〔補訂版〕4頁, 35頁(2004年3月)

〔補訂2版〕4頁, 35頁(2005年3月)

〔第2版〕4頁, 35頁(2006年3月)

〔第3版〕4頁, 35頁(2010年12月)

〔第3版補訂版〕4頁, 35頁(2013年2月)

〔第4版〕4頁, 36頁(2014年3月)

〔第5版〕4頁, 36頁(2017年4月)

〔第6版〕4頁, 36頁(2020年3月)

〔会社法上の罰則〕

〔補助金・公的資金の不正受給〕

〔カード犯罪〕

神山敏雄, 斉藤豊治, 浅田和茂, 松宮孝明編著

『新経済刑法入門』(成文堂)

〔初版〕156頁, 272頁, 319頁(2008年12月)

〔第2版〕168頁, 309頁, 362頁(2013年7月)

斉藤豊治, 浅田和茂, 松宮孝明, 高山佳奈子編著

『新経済刑法入門』(成文堂)

〔第3版〕175頁, 348頁, 402頁 (2020年12月)

〔第4章6 過失〕

〔第7章 罪数〕

松宮孝明編『ハイブリッド刑法総論』(法律文化社)

〔初版〕122頁, 277頁 (2009年1月)

〔第2版〕124頁, 282頁 (2015年5月)

〔第3版〕125頁, 282頁 (2020年4月)

〔序 刑法各論の意義と体系〕

〔第6章5 横領の罪〕

〔第6章6 背任の罪〕

〔第6章7 盗品等に関する罪・毀棄および隠匿の罪〕

〔第10章 公共の信用に対する罪〕

松宮孝明編『ハイブリッド刑法各論』(法律文化社)

〔初版〕1頁, 193頁, 209頁, 218頁, 261頁 (2009年1月)

〔第2版〕1頁, 198頁, 214頁, 223頁, 268頁 (2012年4月)

〔第14章 刑事司法のトピックス〕

川嶋四郎, 松宮孝明編『レクチャー日本の司法』〔αブックス〕

(法律文化社) 237頁 (2014年2月)

〔刑法の行為概念〕

〔責任原理〕

〔故意なき道具を利用した間接正犯における客観的帰属〕

〔客観的帰属論に関する覚え書き〕

〔異邦人の責任〕

松宮孝明編『ギュンター・ヤコブス著作集〔第1巻〕犯罪論の基礎』

(成文堂) 1頁, 33頁, 167頁, 191頁, 211頁 (2014年11月)

〔序章 刑法判例の読み方〕

〔第3章 正当防衛・過剰防衛 『ゴミ捨て場闘争』事件〕

〔第6章 過失致死傷罪と『信頼の原則』 『黄色点滅信号機』事件〕

〔第8章 共同正犯と正当防衛 『仲間の過剰防衛』事件〕

〔第12章 承継的共(同正)犯 暴行加担事件〕

〔第18章 『偽造』の意味 『法定代理人による偽造』事件〕

〔第20章 横領の意味・不可罰的事後行為・公訴時効 『横領物の横領』事件〕

松宮孝明編『判例刑法演習』(法律文化社)

1頁, 42頁, 98頁, 130頁, 188頁, 287頁, 314頁(2015年4月)

「4 構成要件論／構成要件要素論」

「18 期待可能性論」

伊東研祐, 松宮孝明編『リーディングス刑法』(法律文化社)

55頁, 276頁(2015年9月)

「会社再建と強制執行妨害の罪」

「食品の安全と過失論の役割」

「日本における過失犯論の展開」

「証券取引法から金融商品取引法へ」

「ネット金融と財産犯」

齊藤豊治, 松宮孝明, 高山佳奈子編著『日中経済刑法の最新動向』

(成文堂) 20頁, 101頁, 164頁, 191頁, 269頁(2020年3月)

「法益侵害の前段階における犯罪化」

「現代の挑戦に晒される刑法学の自己理解(コメント)」

「社会的損害? 刑法理論上の基本問題に関するコメント」

松宮孝明編訳『ギュンター・ヤコブス著作集[第2巻]刑法と刑罰の機能』

(成文堂) 1頁, 73頁, 103頁(2020年4月)

監訳・翻訳

「第四章 死への自由——殺害を求める権利ではない: 1986年のベルリンに
おける第56回ドイツ法曹大会刑法部会のテーマに関する一考察」

「資料② ドイツ外科学会・死病者および死にゆく者の治療のための決議
(1976年)——医師および法律上の指示」

「資料③ 臨死介助のための連邦医師会指針(1979年)」

「資料④ 臨死介助に関する法律対策」

「資料⑥ 『自死への権利は認められるか。生命維持と自己決定との緊張関
係に立つ刑法』をテーマとする第56回ドイツ法曹大会刑法部会決議」

「資料⑦ 『ヒトにおける人工受精——許容性と民法上の効果』をテーマと
する第56回ドイツ法曹大会民法部会決議」

アルビン・エーザー著/上田健二, 浅田和茂編訳

『先端医療と刑法』(成文堂)

119頁, 329頁, 332頁, 335頁, 339頁, 342頁(1990年6月)

- ギュンター・ヤコブス 「責任原理」
立命館法学230号 159頁 (1993年12月)
- ギュンター・ヤコブス
「機能主義と古きヨーロッパの原則思考の狭間に立つ刑法 はたまた
『古きヨーロッパ』 刑法との決別か？」(金尚均と共訳)
立命館法学247号 156頁 (1996年10月)
- ギュンター・ヤコブス
「従属性——共同組織化の前提条件について——」(豊田兼彦と共訳)
立命館法学253号 196頁 (1997年10月)
- ギュンター・ヤコブス
「作為および不作為の刑法的帰責」(平山幹子と共訳)
立命館法学253号 218頁 (1997年10月)
- ギュンター・ヤコブス
「刑法における作為と不作為」(平山幹子と共訳)
立命館法学268号 256頁 (2000年 3月)
- クルト・ゼールマン 「刑法における法と倫理」
立命館法学278号 254頁 (2001年12月)
- ヴォルフガング・フリッシュ
「社会の変化の結果としての刑法の変遷」(金子博と共訳)
立命館法学326号 317頁 (2010年 1月)
- ヴォルフガング・フリッシュ
「量刑に対する責任、危険性および予防の意味」
ヴォルフガング・フリッシュ、浅田和茂、岡上雅美編著
『日独シンポジウム 量刑法の基本問題——量刑理論と量刑実務との対話——』
(成文堂) 3頁 (2011年11月)
- 盧勤忠
「クレジットカード情報窃取買付不法提供罪の刑法的分析」(孫文と共訳)
立命館法学351号 409頁 (2014年 2月)
- 劉憲權
「人工知能時代における刑事責任の変遷」(監訳を担当、孫文訳)
立命館法学396号 467頁 (2021年 8月)

張麗卿

「人工知能時代における刑法への挑戦と対応：自動運転車を例として」
(監訳を担当, 孫文訳)

立命館法学397号 333頁 (2021年10月)

劉憲權

「ネット決済におけるクレジットカード犯罪の行為客体の新たな理解」
(監訳を担当, 孫文訳)

立命館法学402号 457頁 (2022年8月)

コンメンタール

「包括的国外犯処罰規定の新設」

「人質による強要行為等の処罰に関する法律の一部改正について」

中山研一, 神山敏雄編

『コンピュータ犯罪等に関する刑法一部改正(注釈)』(成文堂)

〔初版〕73頁, 85頁(1987年11月)

〔改訂増補版〕(福田吉博と共著)197頁, 213頁(1989年2月)

第1編第6章前注及び第31条～第34条の2

第1編第7章前注

第2編第36章第236条～第241条

伊東研祐, 松宮孝明編『学習コンメンタール刑法』(日本評論社)

51頁, 57頁, 390頁(2007年4月)

「第八章 騒乱の罪」

「第一五章 飲料水に関する罪」

「第三八章 横領の罪」

阿部純二編『基本法コンメンタール〔第三版〕2007年版/刑法』

別冊法学セミナー192号 152頁, 187頁, 339頁(2007年5月)

第1編第6章前注及び第31条～第34条の2

第1編第7章前注

第2編第19章の2前注及び第168条の2～3

第2編第36章第236条～第241条

伊東研祐, 松宮孝明編『新・コンメンタール刑法』(日本評論社)

67頁, 73頁, 296頁, 428頁(2013年3月)

第1編総則

第1編第6章前注及び第31条～第34条の2

第1編第7章前注

第2編第16章前注及び第148条～第153条

第2編第18章第162条～第163条

第2編第18章の2前注及び第163条の2～5

第2編第19章の2前注及び第168条の2～3

第2編第24章前注及び第188条～第192条

第2編第36章第236条～第241条

松宮孝明, 金澤真理編『新・コンメンタール刑法〔第2版〕』(日本評論社)

1頁, 66頁, 72頁, 257頁, 283頁, 287頁, 300頁, 339頁, 443頁 (2021年2月)

紹介

「最近の外国刑法事情29 西ドイツ『新刑法雑誌』の紹介(二八)」

警察研究55巻12号 64頁 (1984年12月)

「最近の外国刑法事情36 西ドイツ『NJW——医療と法に関する特集号』の紹介(二)」

警察研究56巻7号 76頁 (1985年7月)

「ギュンター・ヤコブス『刑法総論』(三)」

(西ドイツ刑法理論研究会として共訳)

関西大学大学院法学ジャーナル44号
69頁〔76-86頁〕(1986年1月)

「ギュンター・ヤコブス『刑法総論』(五)」

(西ドイツ刑法理論研究会として共訳)

関西大学大学院法学ジャーナル46号
117頁〔117-126頁〕(1986年9月)

「ギュンター・ヤコブス『刑法総論』(七)」

(西ドイツ刑法理論研究会として共訳)

関西大学大学院法学ジャーナル48号
132頁〔163-173頁〕(1987年6月)

「最近の外国刑法事情68 臨死介助と自死への権利(二)——最近の西ドイツにおける重要文献の紹介」

警察研究59巻5号 76頁 (1988年5月)

- 「アクセル・シュッツバッハ『労働災害に対する刑事責任』
南山法学12巻4号33頁(1989年3月)
- 「最近の外国刑法事情86 バイオテクノロジーと刑法(三)」
警察研究60巻11号71頁(1989年11月)
- 「最近の外国刑法事情101 ラルフ・ドライアー, ヴォルフガング・ゼラート編
『第三帝国における法と司法』(二)」
警察研究62巻5号71頁(1991年5月)
- 「クラウス・ロクシン『目的性と客観的帰属』
法と政治42巻2号127頁(1991年6月)
- 「最近の外国刑法事情110 ラルフ・ドライアー, ヴォルフガング・ゼラート編
『第三帝国における法と司法』(一〇・完)」
警察研究63巻3号72頁(1992年3月)
- 「最近の外国刑法事情115 アメリカのホワイトカラー犯罪(六)」
警察研究63巻9号72頁(1992年9月)
- 「ギュンター・シュベンデル祝賀論文集の紹介(四) ハロー・オットー『過失
の正犯と共犯』
立命館法学237号206頁(1995年1月)
- 「ギュンター・ヤコ布斯 故意なき道具を利用した間接正犯における客
観的帰属」
立命館法学258号87頁(1998年9月)
- 「フランクフルト大学犯罪科学研究所編『刑法の驚くべき状態について』の紹
介(六) クラウス・ギュンター『権利侵害から義務侵害へ: 刑法における
『パラダイム転換』?』
立命館法学273号565頁(2001年2月)
- 「ギュンター・ヤコ布斯 現代の挑戦を前にした刑法学の自己理解」
立命館法学280号113頁(2002年3月)
- 「理論刑法学におけるパラダイムの転換: ギュンター・ヤコ布斯教授古稀祝賀
論文集の紹介」
川端博, 浅田和茂, 山口厚, 井田良編
『理論刑法学の探究①』(成文堂)195頁(2008年5月)

書 評

- 山中敬一「因果関係（客観的帰属）」
法律時報66巻9号 108頁（1994年8月）
- 西田典之「『共犯と身分』再論」
法律時報67巻7号 103頁（1995年6月）
- 橋田久「強制による行為の法的性質（一）（二）完」
法律時報68巻8号 94頁（1996年7月）
- 成瀬幸典「文書偽造罪の史的考察（一）（二）（三・完）」
法律時報69巻7号 84頁（1997年6月）
- 山口厚著『問題探究 刑法各論』
現代刑事法17号 91頁（2000年8月）
- 林幹人「不法原因給付における『給付』の意義——批判に答えて」
法律時報74巻4号 93頁（2002年4月）
- 大橋靖史・森直久・高木光太郎・松島恵介著『心理学者、裁判と出会う
——供述心理学のフィールド』
法律時報77巻2号 103頁（2005年2月）
- 交通法科学研究会編『危険運転致死傷罪の総合的研究——重罰化立法の検証』
法律時報78巻6号 98頁（2006年6月）
- 足立友子「詐欺罪における欺罔行為について（1）～（5）完
——詐欺罪の保護法益と欺罔概念の再構成」
法律時報79巻8号 162頁（2007年7月）
- 井田良著『変革の時代における理論刑法学』
刑事法ジャーナル13号 120頁（2008年10月）
- 佐藤陽子「被害者の承諾における三元説の意義について
——『被害者の承諾』の犯罪論体系上の地位に関する一考察」
法律時報84巻13号 362頁（2012年12月）
- 裘美蘭「詐欺罪における財産上の損害」
法律時報86巻2号 118頁（2014年2月）
- 樋口亮介「注意義務の内容確定基準——比例原則に基づく義務内容の確定」
法律時報87巻11号 160頁（2015年10月）
- 安田拓人ほか「特集 『責任』の意義の多角的検討」
法律時報90巻10号 112頁（2018年9月）

- 石川元也『創意——事実と道理に即して刑事弁護六〇年』
法律時報92巻8号128頁(2020年7月)
「『大崎事件』不屈と再生の物語——試されているのは法律家である」
(鴨志田祐美『大崎事件と私：アヤ子と祐美の40年』)
法学セミナー802号132頁(2021年11月)

対談・インタビュー

- 「〈対談〉共犯論の再構築をめざして(特集・共犯論の新様相)」
(川端博と対談)
現代刑事法53号4頁(2003年9月)
「立命館大学法科大学院 地球市民法曹を丁寧育てる 市川正人教授,
松本克美教授, 松宮孝明教授に聞く」
法学セミナー593号1頁(2004年5月)
「刑事系科目試験問題(特集 新司法試験問題の検討)」
(笠井治[司会]=松宮孝明=白取祐司)
法学セミナー620号24頁(2006年8月)
「刑事系科目試験問題(特集 新司法試験問題の検討2007)」
(笠井治[司会]=松宮孝明=白取祐司)
法学セミナー632号26頁(2007年8月)
「【対談】刑事法学から憲法学に問う(特集 改憲問題 刑事法学からのア
プローチ)」(愛敬浩二と対談)
法学セミナー635号10頁(2007年11月)
「犯罪被害者の権利——研究室の中で・学生との対話(特集 改憲問題
刑事法学からのアプローチ)」(学生と対談)
法学セミナー635号38頁(2007年11月)
「刑法の原則くつがえす『共謀罪』『テロ等準備罪』制定の嘘と欺瞞」
(インタビュー)
前衛948号68頁(2017年5月)
「戦争の反省の上に立つことこそ学会議の思想的基盤」(インタビュー)
前衛995号23頁(2020年12月)

学界回顧・判例回顧

- 「二〇〇五年学界回顧 刑法」
（豊田兼彦，塩谷毅，平山幹子，安達光治，野澤充と共同執筆）
法律時報77巻13号 61頁（2005年12月）
- 「二〇〇六年学界回顧 刑法」
（豊田兼彦，塩谷毅，平山幹子，安達光治，野澤充と共同執筆）
法律時報78巻13号 65頁（2006年12月）
- 「二〇〇七年学界回顧 刑法」
（豊田兼彦，塩谷毅，平山幹子，安達光治，野澤充と共同執筆）
法律時報79巻13号 66頁（2007年12月）
- 「2013判例回顧と展望 刑法」
（本田稔，安達光治，嘉門優，大下英希と共同執筆）
法律時報86巻7号 51頁（2014年6月）
- 「2014判例回顧と展望 刑法」
（本田稔，安達光治，大下英希，嘉門優と共同執筆）
法律時報87巻6号 51頁（2015年5月）
- 「2015判例回顧と展望 刑法」
（本田稔，安達光治，大下英希，嘉門優と共同執筆）
法律時報88巻6号 48頁（2016年5月）

その他

- 「ギュンター・ヤコブス 市民刑法と敵味方刑法」（平山幹子訳の序を執筆）
立命館法学291号 459頁（2004年2月）
- 「クラウス・ロクシン 古稀祝賀論文集の紹介（1）」（はしがきを執筆）
立命館法学297号 166頁（2005年2月）
- 「シンポジウム 包括的な死因究明制度の確立を旨として 総合討論」
年報医事法学25号 81頁（2010年7月）
- 「日中比較刑事法セミナー（1） I. 中国の金融犯罪に関する刑事立法および
中国の犯罪論体系に関する資料の掲載に当たって」
立命館法学347号 603頁（2013年6月）
- 「日中比較刑事法セミナー（2） I. 中国における薬物犯罪の動向及び刑事
政策の展望に関する資料の掲載に当たって」
立命館法学349号 478頁（2013年10月）

「日中比較刑事法セミナー(3) I. 第1回日中経済刑法研究会『クレジットカード犯罪をめぐる諸問題』の資料の掲載に当たって」

立命館法学351号 371頁(2014年2月)

「法曹と法学教育の未来 シンポジウム『若手法曹がリアルに語る 法曹と法学教育の未来』について」(斎藤浩と共著)

法学セミナー720号 31頁(2015年1月)

「<実践報告>北京大学法学院と立命館大学法学部・法科大学院との第1回および第2回日中法学シンポジウム」

立命館国際地域研究45号 153頁(2017年3月)

「フライブルクで中国刑法学の源流を探す」

立命館ロー・ニューズレター86号 12頁(2019年2月)